



昭和47年度決算認定される

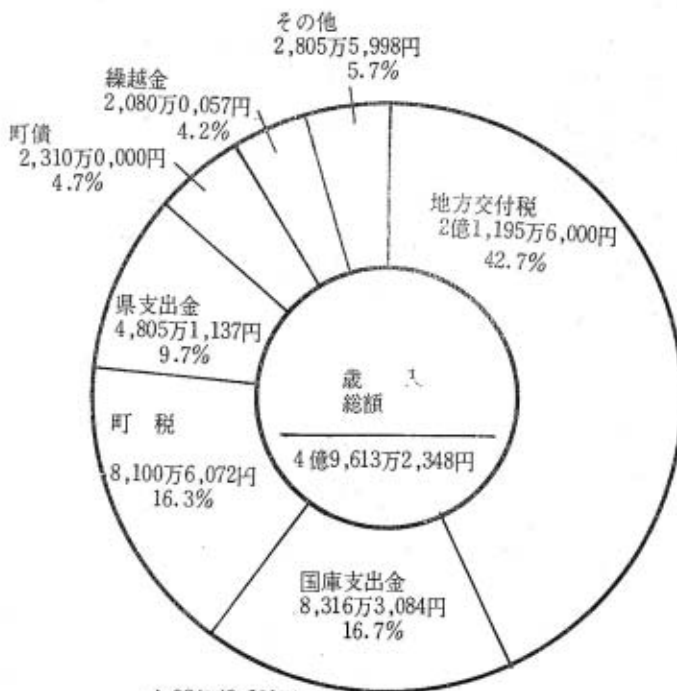
歳出総額 四億九千六百万円

去る十月十五日開催された第二回秋穂町議会定例会に昭和四十七年度秋穂町一般会計及び特別会計歳入歳出諸決算を提出し、審議され、十月二十日認定されました。

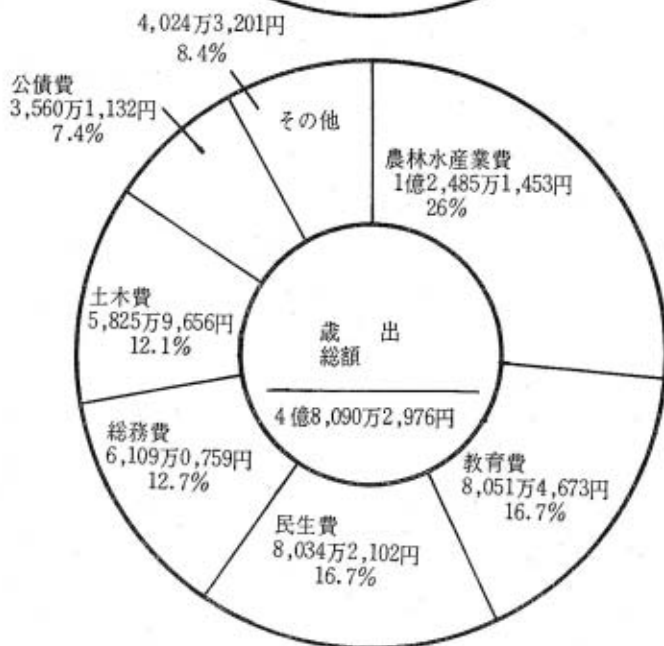
認定された諸決算の状況は次のとおりです。

一般会計

歳入



歳出

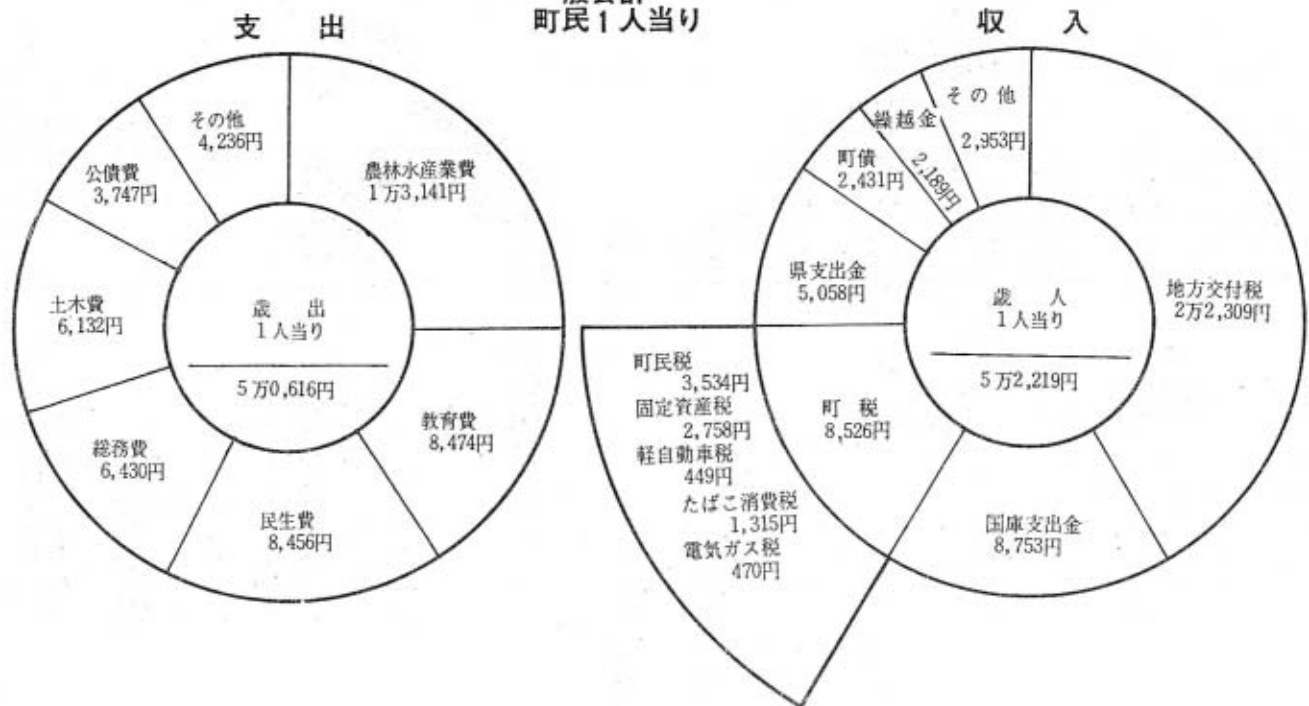


秋穂町長 末貞 巖

地方自治法第二百三十三条第五項の規定にもとづき昭和四十七年度決算の要領を次のとおり公表する。

昭和四十八年十月五日

一般会計
町民1人当り



主要施策

成果の説明

一般会計

昭和四十七年度秋穂町一般会計の決算額は、歳入総額四億九千六百三十三万二千三百四十八円、歳出総額四億八千九百九十九万七千七百六十六円、歳入歳出差引残額千五百二十二万九千三百七十二円となっております。

これを前年度と比較して見ますと、歳入において、一四・一％、歳出において一六・一％の伸びをいたしております。

歳入におきましては、町税は、前年度と比較し、一六・七％の伸率を示しておりますがこれは町民税及び固定資産税の収入が大きかったことによるものであります。地方交付税におきましては歳入総額の四二・七％を占め、伸率は前年より若干減少しましたが、これも一・二％と一応通常の伸びとなっております。地方譲与税、自動車取得税、繰越金等ともに大きな伸率となっております。特定財源におきましては、建設事業の増加、福祉施策の実施等により国庫支出金において二八％、県支出金において

七九・二％の収入増となっております。

町債におきましては前年度より四九・六％の減を見っております。

歳出におきましては民生費の一〇・五％をはじめ農林水産業費四五・七％その他土木費・議会費・総務費・商工費が増加しております。

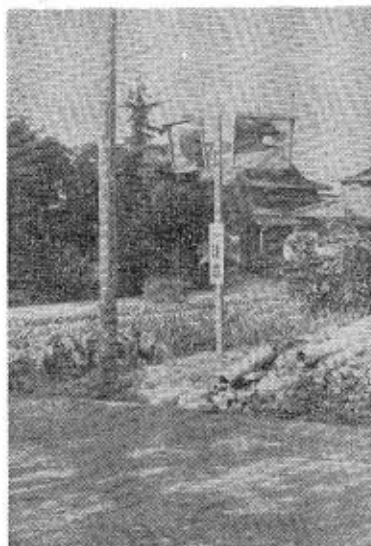
近年わが国の経済は高度な成長を遂げ今や西欧諸国の水準に接するまでに至っている状況であります。しかしこの間、がむしやらとも云える努力の中に色々な問題を生じて来たこともゆがめない事実であり、今やこのひずみの解決と併せて新しい時代への環境に適應した経済の一層の発展と、町民生活の充実向上を実現すべき時期であることはいうまでもないこととあります。本町におきましてはこのような事態に対処しての

諸施策が進められて来ており、昭和四十七年度におきましても ○社会福祉の増進 ○産業の振興 ○教育の振興とこの三つの柱を中心に行行政各分野にわたる諸施策の遂行に努めてきたのであります。年度途中において執行部激変の事態となり、一時地域住民に少なからずの影響を及ぼしましたことは誠に遺憾であり心からおわび申し上げます。幸にして伝統ある町民の旺盛な活動力を背景に各部門における当面の諸問題に対処することができ、その成果につきましては充足向上しているものと確信いたしております。

本決算における主要部門の主施策及び成果を歳出面から説明いたしますと次のとおりであります。

主要部門別の主な
施策と成果

本決算における主要部門の主施策及び成果を歳出面から説明いたしますと次のとおりであります。



カーブミラー

一、総務費部門

本部門における歳出決算額は、六千九百九十七万五千九百四、前年度に比較しますと二・七％の増加となっております。この伸びは主として人件費、物件費の増加によるものであります。

本部門は、管理的経費が主であります。施策面では先ず、交通安全対策であり、著しいモータリゼーションの進展は、住民生活と経済交流に大きな貢献を見ておりますが反面、交通事故による犠牲者は減少の傾向にあるものの人命尊重の立場からこれが事故防止対策は極めて重要な課題であり、町交通安全対策協議会等関係機関とともにこれが対策を推進いたしております。本年度も主要個所に道路反射鏡を設置し、安全施設の拡充を図り併せて交通指導員の共同設置、事故相談所の継続実施等一連の事故防止対策と被害者の救済対策に努めその効果があったものと確信いたします。

地方振興面では、部落共同施設、防犯灯設置に対する援助を実施し振興の一助といたしております。

二、民生費部門

本部門における歳出決算額は、八千三十四万二千二百二円で歳出総額の一六・七



％を占め前年度に比較しますと一一・〇・五％と大きく増加いたしております。経済社会の大きな変動は、人口構造、家族構成の変化などをもちまして社会生活は一層複雑化し、これらに起因して福祉に対する需要は一段と高まっている今日、社会保障や福祉対策もその変動に応じた新しい姿勢で対処する必要があります。本部門はその成否の鍵となる重要部門でありまして、主施策といたしまして生活困窮者の救済援助措置を図り、特に老人対策につきましては老人医療助成をはじめ、高令者福祉年金の支給、老人検診を継続実施するとともに老人福祉センターに対する建築補助、老人クラブの育成援助等を実施し老人福祉の増大に努めております。

児童福祉面におきましては、保育に欠ける幼児、児童の入園、入所措置を講じるとともに施設の整備にも意を注いでおります。また地区における子どもの遊び場設置についても援助を実施しています。

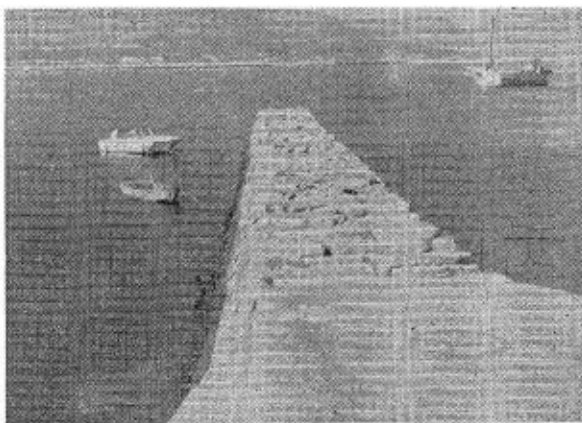


本部門より国民健康保険特別会計に五百万円を繰出し国民健康保険財政の適正な運営に寄与したことも特筆すべきことであります。

三、衛生費部門

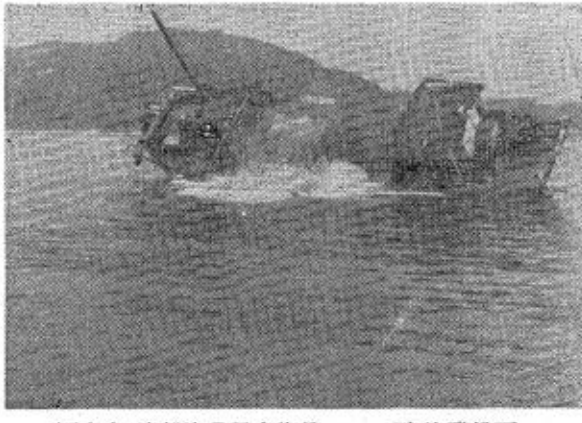
本部門における歳出決算額は七百八十九万三千六百四十七円であります。前年度より若干減少いたしておりますが、これは前年度ごみ収集車を購入しているためでこの分を除いて比較しますと二三％の増加となっております。まず多年の懸案でありましたごみ収集業務を開始し一般廃棄物の処理の円滑化を図るとともに衛生害虫共同駆除に対する

業助成、また地区衛生組織の育成援助等を実施し生活環境の改善に努めております。健康の保持はいつの時代においてもすべての人の願う基本的課題でありまして、疾病予防面には特に配慮し各種予防接種、住民検診、保健相談、水質検査等を保健所、その他医療機

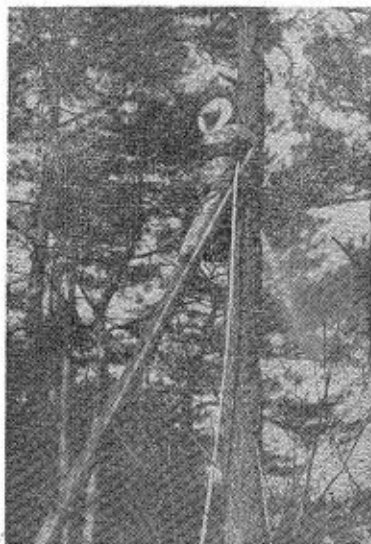


関との連携により実施しその向上を見ております。尚、広域圏事業の一環として、山口衛生施設組合の発足或いは大海地区簡易水道の設置等衛生対策の推進に努めております。

四、農林水産業費部門
本部門における歳出決算額は、一億二千四百八十五万一千四百五十三円で歳出総額の二六％を占めております。郷土産業の主軸であり、豊かな町づくりの根源をなす重要部門でありまして、近代化のための諸施策を実施し生産の増大と生産性の向上に努めております。農業面におきましては米生産



写真上 漁船漁具保全施設 下 漁礁投石



松くい虫防除

調整の対応する転換作の促進を重点とし、集団生産組織の育成援助をはじめ、施設園芸の促進、生産グループ育成等に力を入れ、一面本町の特産ともいえるキャベツ、柑きつもの安価対策としての補てん金等実施し次の生産に対する配慮を加えるとともに近代化事業、土地改良事業など関係機関と

の連けいを図りながら、近代化への即応と生産性の拡大に努力致しております。林業におきましては、小さい虫の防除対策を主眼とし資源保護につとめるとともに、最近盛んになりつつある、しいたけ栽培グループの育成に意を注ぎ林産物振興の一助としております。

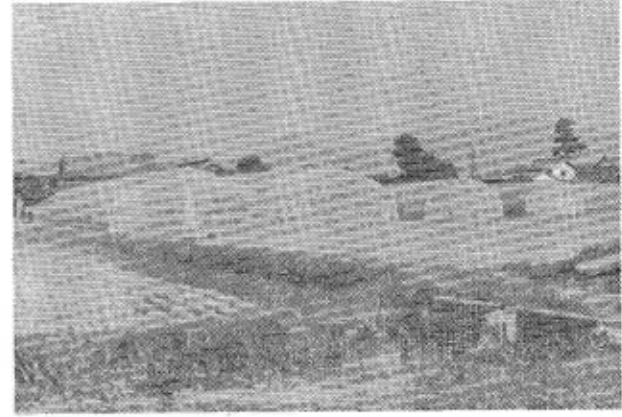
水産面におきましては最近における漁場環境の変化は漁業生命をも逸する状況に至らんとしておりこれが解決策には固をはじめ関係諸団体挙げて鋭意努力を続けていくところであります。その中において如何にして生産性を維持高揚し、経営の安定を図るか極めて

五、商工費部門
本部門における歳出決算額は三百九十九万九千四百八十八円となっております。中小企業はほとんど占める本町の商工業の発展は、町経済の伸展に大きく波及するものであり産業施策面から援助指導が必要であります。このため商工会に助成措置

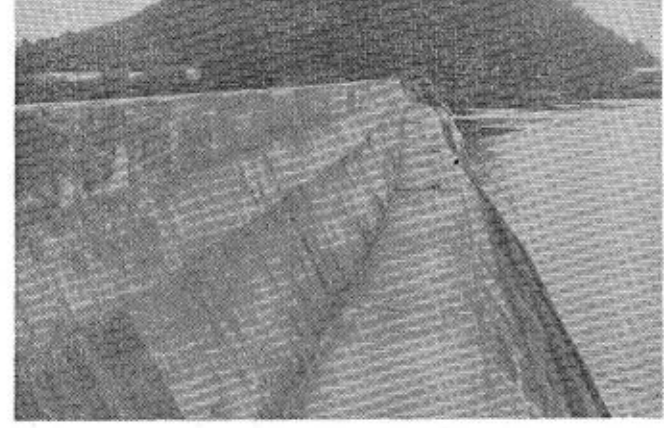
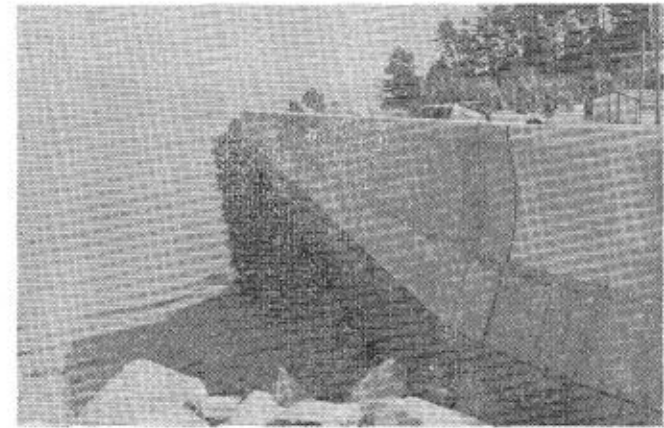
の連けいを図りながら、近代化への即応と生産性の拡大に努力致しております。林業におきましては、小さい虫の防除対策を主眼とし資源保護につとめるとともに、最近盛んになりつつある、しいたけ栽培グループの育成に意を注ぎ林産物振興の一助としております。

緊要の課題でありまして、当面の施策として漁業地域振興対策事業、海底清掃、赤潮対策、養殖漁業の拡大、漁礁の設置など一連の環境改善に努める一方、漁港の整備拡充、近代化事業の促進等これまた関係機関との緊密な連携のもとに実施しております。

を講じ、機関機能の強化に資しております。また、本年度より商工会青年部の発足を果たすことによりこのグループ育成援助をも実施いたしております。

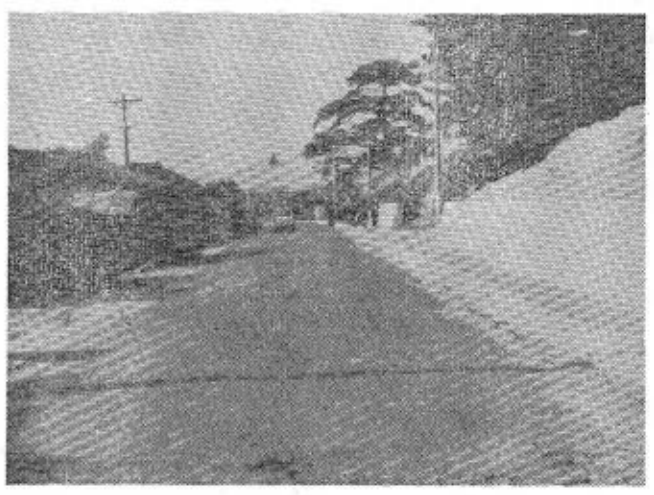


写真上 赤潮対策 下 施設開芸



較し一〇・二%の増加となっており。このうち道路橋りょう費におきましては前年度総額に比し若干減少を見ましたが、港湾費におきましては前年度に比し四三・一%と大きく増加しています。

本部門は、経済交流、産業基盤の根幹となるものでありわけ生活関連道の整備に重点を置き、道路の新設改良併せて排水路の整備を積極的に実施しております。一方交通安全面からもスク



右下 スクールゾーン
左上 海岸保全施設小浜
左下 花香海岸高潮対策



漁港修築

1ルゾーンの中心地である町道通明院畔線に歩道設置事業を継続実施いたしております。港湾関係におきましては、高潮対策事業として海岸堤防補強工事の事業量を拡大し継続実施するとともに、樋門改修など既設設備の改善管理にも意を注いでおります。

七、消防費部門

本部門における歳出決算額は三百九十四万九千二百二十五円でありまして前年度に比較すると若干減少いたしておりますが、前年度は消防車を購入したためこの分を除いて見ますと一九・四%の増加となっております。生活様式や建築構造の質的变化は一旦有事の際の様相は複雑多岐の傾向にある今日、防災態勢の充実強化は必須要件であることから、消防備品等の整備をはじめ自衛消防団に対する援助措置を行ない消防力の充実に努めております。

八、教育費部門

本部門における歳出決算額は、八千五十一万四千六百七十三円で歳出総額の一六・七%を占めております。心身ともに健康で明るく豊かな町民を育成する使命をになう教育の責務は大きく、町勢発展の原動力であることは今更申すまでもないことでありまして、学校教育は勿論のこと、あらゆる場所、あらゆる機会が教育の場であり生涯教育の立場から巾広く、教育環境の

整備と内容の充実に主眼を注いでおります。まづ学校教育面では、時代に即応した教育備品の整備充実を図り、併せて校舎の保全を期すための各種補修工事を実施、また環境緑化にも力を注いでおります。附属設備である秋穂小学校庁務員宿舎の建築も行なっております。尚父兄負担の軽減についても配慮を加えております。社会教育におきましては、前年度に継続して中央公民館大会議室の建築を実施し併せて老人福祉センターの併設に伴う本館の諸施設設備の整備を図り全館機能の強化充実を図っております。

施設もさることながら各種学級、教室を継続或いは新規開設するとともに、社会教育団体の育成指導を通じ社会教育の前進に努めその向上を見ております。保健体育面では、各種体育行事を中心に町民体力づくり運動を推進いたします。団体に対する援助を併せて行なっております。保健関係におきましても栄養改善の実習の場を通じこれを推進し、これまた多大の成果を見ております。そのほか町民プールの塗装、給食センター排煙設備の改修等を実施し、関係施設の維持管



写真は中央公民館大会議室の全容

理にも意を注いでおります。九、災害復旧費部門

本部門における歳出決算額は千五百二十一万二千二百七十円で、前年度に比し減少いたしておりますが、本年度は七月豪雨による被害以外に大きな災害がなかったことによるものでむしろ喜ばしい現象といえましよう。しかし被災個所の早期復旧に努め道路・河川・港湾の災害復旧工事を実施し民生安定の一助といたしております。

- 延二千七百六十人(町立七百二十人、私立二千四百十人)
- 3 児童手当受給者 延七百七十五人
- 4 高令者福祉年金受給者 六百十人
- 5 老人検診受給者 二百五人
- 6 老人に対する愛のベル設置、十四戸

三、衛生部門

- 1 各種予防接種実施状況インフルエンザ、延七千八百十人。日本脳炎、延二千八百七十三人。ツベルクリン、千九百四十一人。種痘(検診を含む)九百十六人。百日せき・ジフテリア・破傷風混合、延四百九十二人。ジフテリア(三期・四期)二百六十八人。
- 2 検診・検査等
 - 乳児検診、春百十九人、受診率八三・二%、秋百十六人、受診率八九%。
 - 結核検診(一般)三千百三人、七二%、内精密七十三人。成人病検診、検査、延四百十六人。ツベルクリン検診、千九百二十人。BCG接種、六百十八人。

一般会計における主要成果

- 一、総務部門
 - 1 交通安全施設
 - 道路反射鏡十四基。標識二基。

二、民生部門

- 1 生活困窮者救済 延八百二十一世帯、延千七百五十四人
- 2 保育に欠ける幼児、児童措置費
- 3 乳幼児相談、延三百三十八人
- 4 母子栄養補給(乳児七人、妊婦五人、産婦二人)

国民健康保険特別会計款別決算状況

歳 入		歳 出	
款	歳入額	款	歳出額
国民健康保険税	24,794,380円	総務費	4,853,612円
使用料及び手数料	6,760	保険給付金	81,427,379
国庫支出金	58,178,334	保険施設費	3,832,016
県支出金	1,622,000	公債費	0
繰入金	5,000,000	諸支出金	67,220
繰越金	3,155,816		
繰入	350,382		
歳入合計	93,107,672	歳出合計	90,180,227

歳入歳出差引残額 2,927,445円

国民宿舎特別会計款別決算状況

歳 入		歳 出	
款	歳入額	款	歳出額
使用料及び手数料	38,457,254円	休養施設費	38,224,793円
繰越金	14,991,548	公債費	2,864,676
繰入	5,997,788		
歳入合計	59,446,590	歳出合計	41,089,469

歳入歳出差引残額 18,357,121円

営業日数 360日 利用者総数 30,548人

内訳 { 宿泊利用者 6,745人
 { 休憩利用者 23,803人

1日平均85人が利用しておられます。

交通災害共済事業特別会計款別決算状況

歳 入		歳 出	
款	歳入額	款	歳出額
共済会費収入	2,393,500円	交通災害共済事業	2,285,800円
繰越金	2,502,315	再共済掛金	2,401,600
共済交付金	2,291,400		
諸収入	12,677		
歳入合計	7,199,892	歳出合計	4,687,400

歳入歳出差引残額 2,512,492円

加入者総数 5,093人 けがをして見舞金を受けた人 61人

加入率 53.6% 受給者1人当たり平均給付額 37,472円

三、歳入

町財政の基幹となる町税の収入は、前年六千九百四十二万円、一六・〇%の歳入に占める構成比をなしていたが、本年は八千六千六千円と千五百八十八千円と伸びると共に、一六・三%と構成比においても少しの伸びを示しているが、経常一般財源に占める割合は、二七・〇%と前年の二六・三%を上廻る結果となった事は、好ましい傾向にある

に於いては、四十六年度は黒字決算をなされたが、四十七年度では、五百五十七万一千円の赤字となつていたので、四十八年度以降に於いての運営は充分検討の上実施されたい。

(三) 財源内訳であるが、特定財源となる国、県支出金は一億三千二百一十一万四千円と前年に比べ三千九百四十二万一千円の増加となっている。又、地方債については、前年四千五百八十万円の借入れがあったが本年は二千三百一十万円と減じている。

又、全特定財源の決算額に占める割合は三九・五%と前年とほとんど変化なく推移している状態にある。これを見ると経常一般財源の伸率も、決算額の増加に伴って伸びているといえる。

(四) 一般会計の支出を検討するに投資的な経費は前年より千四十一万一千円の増加となつてはいるが、決算額に占める割合は四一・八%と前年の四六・〇%を四・二%下廻る結果となつている。又、消費的経費は一億七千二百九十五万八千円、その他経費七千四百八十八万九千円、公債費三千五百六十万一千円となりこの内でも消費的経費の内人件費の伸びが大きく、次が社会福

入歳出差引残額二百五十一万二千四百九十二円となつております。前年度と比較し、歳入一三・八%、歳出二二・五%の伸びとなつております。加入成績は良好で県下町村中最上位にあることは、この制度に対する住民の理解と協力のあらわれと思ひます。一方歳出の見舞金支出の状況は前年度と比較しますと件数、金額ともに増加いたしております。主要成果については、次のとおりであります。

1 共済加入者数五千九百九十人

2 見舞金支給状況

一等級二、三等級一四等級十、五等級六、六等級十五、七等級二十七、計六十一。

自昭和四十八年九月十二日至昭和四十八年九月二十一日

監査委員 山本 定市
安田 民子

監査公表

意見書

地方自治法第二百三十三條第二項の規定により審査に付せられた昭和四十七年度秋穂町歳入歳出決算の審査を執行したのでその結果について意見書を提出する

一、決算計数について

昭和四十七年度一般会計並びに各特別会計の決算について、出納及び証拠書類の審査を行なった結果、厳正に実施され、計数に相違ないことを確認した。

二、町財政の現況について

(一) 当町の一般会計における歳入歳出面での状況は、歳入において、前年の四億三千四百八十四万円が四億九千六百一十三万二千円と六千二百九十九万二千円の増加となり、一四・一%の伸びを示し又歳出は前年四億千四百四十四万四千八百八十六万三千円が増加し、一六・一%の伸びと、歳入歳出それぞれ増加しているが、わずかに歳出の伸びが大きい。

(二) 実質収支並びに単年度収支は四十六年度繰越額二千八十万円に対し、四十七年度は、千五百二十二万九千円と減少し、単年度収支

(三) 財源内訳であるが、特定財源となる国、県支出金は一億三千二百一十一万四千円と前年に比べ三千九百四十二万一千円の増加となっている。又、地方債については、前年四千五百八十万円の借入れがあったが本年は二千三百一十万円と減じている。

(四) 町債の状況は、前年度末二億四千四百八十一万六千円であるが本年度末は二億四千七百六十四万一千円と少額な伸びであった。本年借入分の内訳は一般単独事業分として、七百万円を借入れ残りの千六百万円は、一般公共事業分(海岸保全・漁港修築等)と災害復旧事業分で借入れされている。

以上一般会計における財政状況について把握して見た結果であるが、四十八年度以降の財政運営については充分検討されたい。

といえる。又、測定に対する収入の状況は、前年と徴収率は、同じであり、前年に引続き努力されている結果と、尚一層、給与の点を考え、滞納がなくなるように努力されるよう望みます。

地方交付税については、前年普通交付税が四千八百十五万六千円、三五・三%増加となっていたが、本年は二千二十二万二千円、一・五%の増加と前年に比較し、大中に減少した点も充分考慮し、今後の運用に對処されるよう望みます。

四、歳出

全般的について異常なく歳正に処理されている。款別に支出の状況を見ると農林水産業費が、二六・〇%と全体の約四分の一を占める結果になっているが、この内容は、投資的な一般補助事業(漁港修築・海岸保全)が殆んどを占めている又、決算額によるここ三年間の構成比の推移は、農林水産業費の九・八%の増加、民生費の七・八%の増加が顕著であるが、この分析をするに農林水産業費については、前述したとおりであるが民生費は、社会福祉充実がさげばれているとおり実施されて行きつつあることが伺える。又、落込ん

だものとしては、教育費が大きく二二%の減となつてゐる。これは学校建設の大きな事業が一段落した結果であるといえる。町よりの補助事業について各団体及び任意団体についての執行状況を实地調査した結果、完全に実施されているものと認めます。

六、財産の管理について 町の用地と民間との境界を設定する必要がある場所を認めるので、この対策を検討し早急な解決をされるよう望みます。

七、基金の運用について

八、備品の管理について 物品の管理は、完全とはいえない点が見受けられるので、これの整理を完全に実施されるよう望みます。

九、特別会計

(一) 国民健康保険特別会計 実質収支は、三百十五万四千円の前年に対し、本年は二百九十二万七千円と二十二万七千円減少した。又単年度収支は、二十二万七千円の赤字となっている。尚この内訳を分析するに、前年は一般会計よりの繰入れがなくての繰越しが見られたのであるが本年は、一般会計よりの繰入れ五百万円を実施してようやく実質

収支において赤字決算にならずに済んだものである。会計独立からいえば単年度収支は五百二十二万七千円の赤字決算であるといえる。これは、昭和四十七年一月一日より老人医療の公費負担が開始され、これに伴う可成り強い影響によるものと認めると共に、四十七年二月に約一二・七%の医療費改訂の要素があり単年度収支の赤字を見ただけでは、福祉充実を目前として一体的遂行という見地から老人医療の波及分として五百万円の繰入れがなされているが、今後も新しい施策として乳幼児の医療無料化が実施されると共に、医療費の改訂が実施される事が予想されている現況にあるので、国保運営については、充分なる配慮をされるよう望みます。

(二) 国民宿舎特別会計 本年の実質収支は、千八百三十五万七千円と前年の千四百九十九万一千円を大きく上廻る結果となり良好な成績を納めているといえる。又単年度収支については、三百三十六万六千円の黒字決算となっている。使用料の収入額について検討すると、昭和四十五年度がピークの四千万円を越

えた額となっているが四十六年度は、約四百万円の減収、この内容は、八月上旬売上最盛期に台風と重なった関係もあり一概にはいえない面もあるが、四十七年度は前年に比べ百九十一万九千円の増加となっていることは順次利用者が増加の方向にあるといえるのではないかと思うと共に、利用者の増加を図るため各方面への広告等の実施も検討されることを望みます。

(三) 交通災害特別会計

実質収支で本年度の会計を見ると、二百五十一万二千円の黒字である。単年度収支でいえば、一万円の繰越しとなっている。収入すなわち加入面から見ると四十六年度事業分共済会費収入に比べ、本年は二十五万円と大巾な増加となっている。これは交通事故に對処するための助け合いの制度が浸透した結果であると考へ喜ばしいことである。今後この制度を町民の方々によく理解していただき一人でも多く加入されるよう努められることを望みます。



くらしと生活

あかあさんのページ

むだにして いませんか？

電 気

電気を多く使うところは 大ききままな工場ですが 近ごろでは、ビルや家庭で 使う電気がずいぶん増えて きました。現在では、電気の 八〇%は火力発電にたよっ ており、燃料の石油は、ほ とんど輸入されています。 中近東諸国の石油輸出制限 で、石油不足は日本国内の 大問題になっています。

ちなみに、各家庭で一日 にテレビ(百ワット)、コ タツ(四百ワット)を一時 間節電した場合の節約の燃 料は、一戸当り一ヶ月で三 ・四五リ(一升ビンで約二 本)にも達します。

わたくしたちも、資源を 大事にするという世界的な 流れに沿って、日常の家庭 生活で次のことに注意し、 ムダ使いをさげましょう。

◎用もないのに、明りをつ ければなしにしています

◎電気のかきや、電球には こりがたまっていません か。

◎見でないテレビはスイ ッチを切り、瞬間受像型 テレビは、外出、寝ると きは電源を切りましょ う

◎電気コタツはマットを敷 いたり、厚目のおおいを かけて保温をよくし、手 まめに温度調節をしたり だれも入らないときはス イッチを切りましょ う。

外に面した窓にはカーテ ンをとりつけるだけでも 寒さがちがいます。

◎電気冷蔵庫も置場所を考 へ、放熱板のホコリはき れいに。また扉のパッキ ングの不良はとりかえま しょう。

◎門灯には、自動点滅器を つけると消し忘れがな く なります。